

平成28年度 第3回大東市産業振興市民会議（報告）

1. 日時・場所 平成28年11月4日（木）午後1時30分～3時30分
川村義肢株式会社

2. 出欠

【出席】

会長	（株）山田製作所 代表取締役社長	山田 茂
副会長	NPO法人住まいみまもりたい 理事長	吉村 悦子
委員	大阪産業大学 教育研究推進センター長・人間環境学部准教授	濱崎 竜英
	大阪経済大学経営学部准教授	遠原 智文
	明星シンセティック（株） 代表取締役社長	上田 隆章
	新大阪食品産業（株） 代表取締役	北尻 正太
	大東商工会議所副会頭（株）キョウコーポレーション 代表取締役	梅木 京子
	経済産業省 近畿経済産業局 総務企画部 企画課長	細川 洋一

【欠席】

委員	大東市商業連合会 会長	角谷 昌寛
	NPO法人大東夢づくりコミュニティ 代表理事	杉山 朋子
	マザーアースアソシエーション 代表	田中 早由里

事務局 産業労働課 森田次長・坂本上席主査・林

3. 議案

● 多様な働き方について

(1) 川村義肢株式会社の取り組みについて

- ・VTRにて会社概要の説明
- ・工場を主に会社見学
- ・代表取締役 川村慶氏の講話
- ・KAWAMURAグループ 多様な働き方の取り組みについて

(2) 意見交換

- ・人材不足が叫ばれる中、人材育成・確保のためには多様な働き方を考え、実践する必要がある。
- ・多様な働き方を実現するために、「なぜできない」ではなく「どうすればできる」というスタンスで考えるべきである。
- ・人は誰もが足りない部分を補い合っている。障害者だけでなく誰にでも優しい町になるのが理想だ。
- ・すべての人が成長できる大東市を目指したい。「教える」より皆で成長する文化が育みたい。

- ・働きやすい会社とは、皆が自由に仕事ができる仕組みができていところ。働きやすい仕組みを作る勉強をしていかないといけない。事例を出したりアイデアを出し合って話し合いができる場があればよい。
- ・ワークライフバランスとは、働く時間を減らし生活の時間を長くするという意味ではない。仕事と生活を共存させながら、持っている能力を最大限発揮し、生産性を向上させるということだ。
- ・生産性を上げて人が足りなければ雇えばよい＝雇用が増える。
- ・社員同士で教え合い工夫し、生産性が上がっている。小さい子供がいる女性は9時から12時までなど、皆が働ける時間に働いて生産性も上がっている。
- ・川村義肢では、業務プロセスを細分化・文書化し、「見える化」をしている。現在の社員のスキル習得度合を「力量表」で管理し、将来の役割については「業務分担表」、現在と将来をつなぐプロセス部分を「教育進捗計画書」として整備し、人材の育成・適正配置に役立てている。
- ・長く勤めてもらうには、目が見えにくくなってきたならばライトを、電話応対の際に手が不自由ならばヘッドセットを用意するなど、働きやすい環境を作ってあげることが必要だ。障害者に限らず、使いやすいものであれば皆が使うようになる。
- ・障害者雇用については、現在の力量で判断してはいけない。将来の伸びしろを見てほしい。働きながら成長していく。一緒に働いている人がその姿を見て、その人が働きやすい工夫を考える良いうずができていけばよい。
- ・子供がものづくりに触れる機会が少なく、ものづくりについて知らない。
- ・昔は工場のシャッターを開けて営業していたので前を通れば何を作っているのか見えていたが、今は騒音などの問題のためシャッターを閉めているのも一因ではないか。
- ・多様な働き方に関する取り組み事例について、情報を発信しシェアするようなカンファレンスを開催してはどうか。
- ・経営者ではなく、そこで働く人が前に出ているほうがよい。
- ・広く公開することで会社の魅力 PR やリクルートの機会にもなり、子供も来られるようにすることで情報発信にもなる。

4. 市長提言について

今回の意見交換を基に、会長と事務局により打ち合わせを行い、会長から市長へ提言を行う。

5. 次回開催について

3月頃開催。別途調整する。